

●発行／九州ミロク会計人会
●協賛／株式会社ミロク情報サービス

九州の風

Winds from Kyushu

vol.108

2023年10月



低気圧・高気圧

SAGA2024（国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会、旧国民体育大会が呼称変更）が開催されます。開催を契機として、SAGAサンライズパーク（佐賀県総合運動場・総合体育館エリア）の整備が進められており、その中核施設である「SAGA アリーナ」が2023年5月13日にオープンしました。

観客席は九州最大級の規模を誇る約8,400席。佐賀駅から北に徒歩約15分。メインアリーナは地上4階建てで、すり鉢状に設計された客席は最大35度の勾配があり、後方席からもフロアの臨場感を楽しむことができます。バレー場の久光スプリングス、バスケットボールの佐賀バルーナーズなどのプロスポーツイベントや、人気アーティストのコンサート、学術会議や展示会・見本市などの大規模なビジネスイベントも催すことができます。

開業を心待ちしていた私は早速、佐賀バルーナーズのB2プレオフやB'zのコンサートを楽しんできました。オープンテラスやアリーナ入口には佐賀県産木材がふんだんに使用されており、黒を基調とした内装は、シックかつモダンなもので洗練された印象を受けました。また、最新の大型ビジョンを備え、試合観戦やライブ鑑賞での臨場感はこれまで経験したことのない特別な空間で終始度肝を抜かれました。

佐賀にはいろんないいものがあると自負しているのですが、最新の魅力度ランキングで佐賀県は全国最下位になってしまったそうです。しかし今回焼き物ではない、集客できる魅力的な「器」ができたと誇りに思っているところです。

（佐賀地区会 吉村 耕輔）

福岡市 旧大名小学校跡地
(福岡地区会 古賀 照章)

旧大名小学校跡地に開発された「福岡大名ガーデンシティ」は、ホテル、オフィス、カンファレンス施設、商業施設、コミュニティ施設で構成される複合施設です。

contents

第48回定期総会	2
記念講演会	4
会員のひろば	19
偏西風・お知らせ・編集後記	23

第48回 九州ミロク会計人会 定期総会

ご挨拶

九州ミロク会計人会
会長 笹田 納



皆さん、こんにちは。会長を拝命しております笹田と申します。よろしくお願ひいたします。

第48回の九州ミロク会計人会の総会を開催するに当たりまして、本日、非常に暑い中、御来賓の皆様におかれましては、御臨席賜りまして誠にありがとうございます。本当に暑いんです。さっきちょっと外へ出てみたのですが、溶けてしまうのではないかというぐらい暑い。命の危険を感じます。そんな中、月末の月曜日、お忙しい中、ウェブ参加まで含めますと80名以上の皆さんの参加を得ています。ミロクの方まで入れますと90名を超える参加者ということで、九州会の活発な活動がうかがえます。これも皆様の御協力のたまものと感謝するところであります。

これから第48回のミロク会計人会の総会を行うわけですが、コロナもそろそろ収束したと言って良いのでしょうか、いろいろドクターからは増えているという話も聞きますが、今後の感染拡大にも注意を払いながら、活発なコロナ禍の前の活動に戻るよう、みんな一生懸命考えて議案をつくっております。どうか、慎重に審議していただき、前向きで活発な御意見を頂戴できればと思ってございます。

それから最後に、2週間前、集中豪雨が九州地方を襲いました。各県に甚大な被害を出したということを聞いております。まずは皆さんの事務所、それから御自宅、クライアントの皆さんに被害はありませんでしたでしょうか。お知り合いの会員の方で被害に遭われた方がおられれば、事務局のほうにその情報を上げていただけたらと思います。みんなで助け合いながら頑張っていきたいところです。

では、これから第48回の総会に入りますので、どうか慎重で活発な御審議をよろしくお願ひいたします。

総会

令和5年7月24日（月）第48回九州ミロク会計人会定期総会が長崎市のホテルニュー長崎において開催されました。

総会は吉住総務委員長の司会で始まり、岡村副会長が開会の辞を述べた後、物故会員の氏名が報告され、黙祷を捧げてご冥福をお祈りしました。

続いて笹田会長の挨拶の後、議長選出に入り長崎地区会の松本信幸会員が選ばれ、議事録署名人に同地区会の野崎地平会員と笠戸智仁会員を指名して議案の審議に入りました。

議案1 令和4年度事業報告及び承認について

議案2 令和4年度決算報告及び承認について

吉住総務委員長及び古賀財務委員長から事業報告及び決算報告について詳細な説明があり、柳武監事

が監査報告を行い、審議の結果承認されました。

議案3 令和5年度事業計画及び予算案承認について

吉住総務委員長及び古賀財務委員長から事業計画及び予算案について詳細な説明があり、審議の結果承認されました。

議案4 理事辞任に伴う新任理事の選任について

吉住総務委員長が熊本地区会から新しく大津孝典会員を理事に選任したいと推薦があった旨を説明し、審議の結果承認されました。

以上をもってすべての審議が終了しました。

続いて来賓の九州北部税理士会 丸山二也会長（西村宰副会長代読）及び株式会社ミロク情報サービス是枝周樹社長から祝辞が述べられ、外園副会長の閉会の辞により総会は無事終了しました。



第 48 回定期総会



懇親会

講演会

定期総会に先立ち記念講演会が開催されました。

講師に長崎総合科学大学名誉教授のブライアン・バークガフニ氏をお迎えし、「トマス・グラバーと幕末の志士」と題して講演をしていただきました。



(記念講演会詳細は 4 ページ以下)

懇親会

定期総会終了後、多数のご来賓をお迎えして盛大に懇親会が開催されました。

佐藤福利厚生委員長の司会のもと、笹田会長及び植田連合会会長の挨拶、来賓紹介が行われ、株式会社ミロク情報サービスの鈴木正徳副会長の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。

久しぶりに長崎での開催ということで多くの会員にご参加いただき、大変にぎやかな懇親会となりました。

最後に大久保前九州会会長の万歳三唱でお開きとなり、本日のすべての行事が無事終了しました。

(長崎地区会 笠戸 智仁)

ゴルフコンペ

情報ネットワーク委員会参加のため、日曜日に長崎に入り、眼鏡橋を見学し、皿うどんを食べ、夜は思案橋界隈での懇親会。

月曜日の午前中、市電でグラバー園を観光し、カステラ・皿うどん・*モケケなどのお土産を孫たちへ宅配し、午後からは、第 48 回九州ミロク会計人会定期総会、講演会、懇親会、二次会。ラッキーなことにホテルへ帰る途中、長崎くんちの曳物の練習に遭遇するなど長崎を堪能できた夜でした。

そして火曜日、私自身長崎県では初めてのゴルフ、名門大村湾カントリー倶楽部オールドコースで九州会親睦ゴルフコンペが開催されました。

長崎市内の 30 度を超える酷暑とは別世界で、そよ風が吹き比較的涼しい中で皆さんと和気あいあいでプレーできました。

年に一度の九州大会、来年の開催県で会員の皆さ



んとプレーが出来ることを楽しみにしています。

会計人会の会員の皆さんで、ゴルフをされる方、来年は一緒に大会に参加されませんか。

*「モケケ」は、全国各地のお土産売り場に売っています。ご当地の可愛いストラップです。

(熊本地区会 畑野 和雄)



トマス・グラバーと 幕末の志士

長崎総合科学大学名誉教授 グラバー園名誉園長

ブライアン・バークガフニ 氏

※去る7月24日に開催された第48回定期総会の記念講演を要約したものです。
※講演会で使用された資料(写真データ等)で、本誌に掲載していない資料があります。
予めご了承願います。

皆様、こんにちは。今日は皆様の講演会に講師として私をお招きいただきまして、本当にありがとうございます。私は日本に来てかれこれ51年になります。いつの間にか人生の3分の2ぐらいを日本で過ごしております。当地長崎には約40年間住んでおりますが、今日このように皆さんにお会いする御縁に恵まれまして、大変うれしく思っております。

はじめに

実は昨日、スターバックスでコーヒーを買おうとしましたら、若い店員さん、多分女子学生だったと思うんですけど、「日本語がお上手ですね」と褒めていただきました。「ありがとうございます」と答え、続いて彼女から「日本には長いんですか」と聞かれました。「51年おります」とは、私としては何となく言えなくて、ちょっと考えて、「多分、私の日本での滞在期間の方が、あなたの人生より長いと思います」という言い方をしましたら、相手に「20年ぐらいですか」と聞かれまして、「はい、そんなものです」と。

日本滞在が50年も過ぎますと長過ぎるというか、ちょっと不思議な気分です。50年以上も日本にいる割にはいつまでたってもしっかりした日本語をマスターできない一方で、私の英語はどんどん劣化していくばかりですから、このままでは英語で話す言葉がなくなってしまうんじゃないかなと思っているような次第です。本日も多少聞きづらい部分があるかと思いますが、どうかお許しいただきたいと思います。

長崎との出会い

私は長年、大学の仕事をしながら、私自身が魅せられてしまった長崎のまちについて研究をしてきま

した。「何で長崎ですか」とよく聞かれますが、私、以前に10年ぐらいお寺で禅の修行をしておりまして、そこでは非常に日本の営みの中にいながらも、将来寺の住職になって日本の社会の中で僧侶という役割を果たすつもりもなかったし、何となく自分の中の西洋と東洋がかみ合わないところがありました。

一種のジレンマのようなものがあったんですが、ちょうどそのときに以前から興味を抱いていました長崎にまいりました。40年以上前の話で、それまで長崎については原爆のことしか知らなかったんですけど、長崎には非常に多彩な国際交流の歴史があることをそのとき初めて知りました。今までシーボルトやグラバー、蝶々夫人の物語は、日本のことなのか中国のことなのか、非常に漠然としたイメージで、それが長崎が舞台だったことさえも知りませんでした。その驚き、感激といいますか、その中でお寺の修行をやめて長崎に行ってみよう。最初は軽い気持ちでしたけど、いつの間にか取りつかれて、この時から長崎の研究が趣味からライフワークになった感じです。

幕末から明治の長崎

今日は特に外国人居留地であった長崎、つまり幕末から明治時代の長崎に絞って、お話しします。スコットランド人の商人で有名なトマス・グラバー、もちろんグラバー園、旧グラバー住宅がありますから、その元のあるじのトマス・グラバー、そして彼が日本人とどのように付き合っていたのか、どのような展開をして、そして彼が日本に何を残したのかということについてお話をていきたいと思います。皆様に何か御参考になることがありましたら幸いです。

写真などを見ていただきながら話を進めていきたいと思います。

さて、江戸時代は長崎の地が唯一の開港場でありまして、出島にオランダ商館、それから唐人屋敷があって、日本で唯一正式に外国人が住むことができるものが長崎でした。もちろん、その前に南蛮時代、キリシタン弾圧の時代があって、長崎に私が来てすごい衝撃を受けるとともに、長崎の雰囲気にびっくりした理由の一つが、長崎にはものすごく長い歴史があって、その中で独特の和洋折衷文化が醸し出されてきて、それを肌で感じられるということです。今まで京都や福岡にも滞在しましたけれど、長崎にはよそとは違う全く別の次元のものを感じました。まさにこの時代、出島にはオランダ人、唐人屋敷には中国人がいて、しかも日本人と平和的に共存をしていたことは、非常に特記すべきことだと思います。200年以上にわたって大きな国際的な流血事件などもなく、貿易、つまり商業活動を大きな共通項として平和的に共存することができた、これが非常に重要なことです。つまり、ビジネス、商業というものは、平和でなければできないものです。少しでも、1回でも拳を上げて相手に対してバカヤローということになれば、それで取引自体が破綻してしまいます。長崎には南蛮貿易時代のクリスチヤン弾圧という悲しい時代があったんですが、江戸時代において、とにかく貿易のまちで、少し嫌なことがあっても貿易によって大きな利益があったわけですから、不満を抑えて、話し合いをもって問題解決をしていくというような長崎の町があったと思います。若いスコットランド人のトマス・グラバーが長崎に来たときに、そういう長崎が彼を待っていたと思います。

長崎とイギリスの出会い

その幕末において、イギリスとの出会いについてはあまり知られていない部分もあると思いますので、御紹介をしたいと思います。

1854年の安政元年に、このようにスターリング提督が4隻のイギリスの軍艦を率いて長崎に入って、そして和親条約の締結を長崎奉行所を通じて徳川幕府に依頼しています。考えてみますと、この前の年にペリーがアメリカの軍艦で日本に来航し、いわゆる砲艦外交のやり方で開国を迫って、この黒船の話が日本を震撼させています。一つの結論として、暴力・武力をもって日本に開国を迫ったペリーが今歴

史に名を残して非常に有名ですけど、イギリス人たちが平和のうちに日英和親条約を結んでいること、また彼らが長崎において6週間も待機させられて、辛抱強く待ちながら難しい締結にたどり着いた、この話がほとんど忘れられていることは皮肉です。つまり、戦争だとか、戦いだとか、けんか、これが歴史になっていきます。つまり、平和、平穏無事というものは歴史に残らないという不思議な現象がある、それがこの一例ではないかと思います。

実はこのスターリングがこういうふうに数週間かけてやっと調印式を迎えて、そして長崎を去ったんですけど、その後、イギリスの新聞に長い報告の記事が掲載されて、その中に挿絵があって、それによってイギリス人は今まで見ることができなかつた長崎の姿、日本の姿をかいだ見ることができました。その中に非常に雑な長崎の地図があつたんですけど、この記録は彼らが手書きで書いたものであつて待っている間にいろいろ長崎を探検して書いたものですが、このように長崎の町があつて、今現在は女神大橋という大きな橋がありますけど、その橋のところに小さな船を並べて、これより先は駄目ですよという線を描いています。そしてイギリス人たちは約束をきちんと守り尊重して、軍艦を沖に停泊させ、幕府の返事を待ったんです。言わば「英國紳士」のやり方を採ったという言い方ができると思います。

この地図で面白いことがあります。高島という島で石炭が掘られていることに彼らは気づきました。わざわざこの地図に載せたということ



「ザ・イラストレーテド・ロンドン・ニュース」
(1855年1月13日号)の挿絵



万延元(1860)年10月、スイス人写真家ピエール・ロシエによる写真(長崎英國領事館資料)

は、長崎で石炭をもし量産することができたら日本にはものすごく将来性があるし、イギリスの船が長崎に入ったときに給炭鉱として利用できるという、いろんな意味でこの石炭には大きな意味がありました。まさに、この高島という地が、若いスコットランド人、トマス・グラバーが日本で最初の近代炭鉱を開設した場所です。

挿絵にこういうものがあって、イギリスの軍艦から見た風景です。こういうふうにボートを並べて、これより先は駄目ですよという、これが当時の日本の防備の在り方です。この先は駄目ですよという程度のもので、イギリス人が待たされて、「何言っているのか。もう行きます」というペリーのやり方であれば、これを破って向こうまで行ってきちんと返事しろと言うことができたはずですけど、していない。このときの日本の状況は非常にデリケートだったことが分かります。

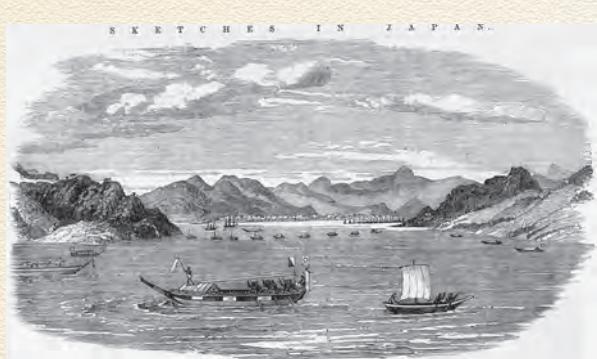
6週間待たされて、やっと調印式にたどり着いて、このように今現在の旧長崎県庁——この旧長崎県庁はもともと奉行所があったところです。イギリスの人たちは上陸するのに、現在の県庁坂というところから入って、そこで調印式をしております。そのときの原本は今英国の公文書館で手にとって見ることができて、その中でスターリングがペンでサインし

て、そして蠟印を押し、長崎奉行の側は、永井尚志と水野忠徳の二人が花押を描いてサインをしています。まさにこれは、近代において日本とイギリスの交流が平和的に始まるこれを記したものです。

そのときの原本というのは何ページにもわたっていて、英語、オランダ語、そして日本語でつづられて、結構分厚い本になっています。その日本語の部分にこのページがあります。私が間違って今皆さんに見せているわけではありません。実際にこういうふうに製本をしています。ここに「12ページ目」と書いてあります。これは想像ですけど、いろいろ整理して、サインをしてもらって、その書類をイギリスの船に持って帰るときにたまたまつまずいたりしてページが全部落ちてしまい、捨うときにもともとの上下関係が全然分からなくなり、このページを逆さまに入れてしまったのではないかと思います。それぐらい両者間の言葉の壁といるのは非常に大きいものがあったんです。

その当時はオランダ語を通訳するオランダ通訳が立会って初めて辛うじて会話ができるような状況でした。そのオランダ通訳の日本人たちが、こういうふうに最後のページに非常に上手にローマ字のサインをしています。これをもってイギリスの船が長崎に入港することができたんですけど、居住、つまり住むこと、そして商業の権利を与えたわけではありません。それは安政五カ国条約が結ばれて初めて成就され、最初は外国人が長崎・横浜・函館の3港における決められたエリア、それらを外国人居留地という言い方をしますけど、出島と同じように、土地は日本が保持する、そして外国人に貸す、そして年間借地料を取るというやり方で居留地がつくられました。

この写真は、多分、日本で初めて撮影されたパノラマ写真で、ロシエというスイス人の写真家が英國



イギリスの軍艦から見た風景

領事に頼まれて撮ったものです。3枚の写真をこういうふうにくっつけた、とてもきれいな写真です。これは残念ながら日本ではなくて、英國の公文書館で発見されたものです。また、江戸時代からの古い集落がありますが、ちょうど外国人居留地を建設するための埋立て工事が行われている、資料的にも非常に貴重な写真です。

グラバーとグラバー園

真ん中のところをアップで見ますと、これが南山手で、今現在グラバー園がある辺りです。今日はグラバー園のPRをしないで帰るわけにはいきませんので、何回か私の口からグラバー園という言葉が出てくると思います。

ここに一軒のお寺がありますけど、今もありますこの妙行寺というお寺に日本で最初の英國領事館が開設されています。そして、この大きな松の木のところがまさにトーマス・グラバーが自宅をつくる場所になります。妙行寺というお寺です。この寺は淨土真宗の何の変哲もない小さな地方の仏教寺院ですけど、外国人居留地に囲まれる形になって、国際交流の新しい時代に巻き込まれます。そしてこの場所に若いスコットランド人、トーマス・グラバーが自宅をつくります。

1859年、安政6年にこの居留地の工事が始まって、約2年かけてある程度完成して、そして外国人たちがこのエリアに建物を建て、商業活動を開始します。そのときに、新しい時代の貿易、ビジネスに参加しようと、多くの若い武士たちが各地から長崎にやってきます。時に西日本各藩から代表を送って、長崎で外国人とお互いに競争して接触して、できるだけいい条件で取引ができるようにと交渉していました。こういうことで実は、幕末の間に長崎で非常に活発な取引というか、貿易が行われました。横浜がその後もどんどん大きくなりますけど、横浜は幕末にはまだ白紙状態からのスタートだったんです。江戸時代には長崎には各藩の屋敷が置いてあって、そして長崎の商人たちも外国人であるオランダ人、中国人と関わるというか、貿易の経験がありましたから、圧倒的に長崎が重要なその受皿といいますか、新しい時代の貿易の拠点として繁栄していきます。その後いつの間にか長崎が忘れられて、神戸・横浜両地の明治時代の発展ばかりがよく話題になりますが、

まず長崎でこのような商取引が始まっていることをよく確認しておく必要があると思います。

この写真は非常に有名な旧グラバー邸の庭で撮影されたものです。この写真は今、長崎大学附属図書館に保管されていますけど、そのタイトルは「グラバー邸の砲台の景色」となっています。これはイタリア人のビアートという人が撮った写真で、時は1864年、開港からまだ5年後ぐらいのグラバー園の様子ですけど、この写真が実は誤解を招いてしまっています。それは何故かといいますと、この大砲です。このように武士風の人が歩いてきて、そこに大砲が並べられていることが分かります。そして、これはグラバーなのか、外国人たちがその辺でくつろいでいる。これがいろんなところに出回って、グラバーは死の商人であり、こういうふうに大砲をはじめとする武器を各藩に売買して倒幕を狙っている、西日本の各藩に武器を売っている、そういう死の商人であることを証明するものだと紹介されますけど、私は個人的にあり得ないというふうに思います。

実はこの写真の説明では、ビアートが明らかにこの日本人にポーズをとらせた非常にパフォーマンス的な写真で、構図を考えて撮られたものです。そして、そのほかに、当時、安政条約のルールでは武器を売ってはいけないという鉄則がありましたから、グラバーがそんなところに大砲を置いて「買いに来てください」ということは考えられないというのが常識です。実はこの大砲を見た人もいて、手記が残っています。その一人がこの松江藩の桃節山という人ですけど、その中でこのように書いています。「砲台を目撃しました。しかし、その様子を見ると、それが要害、つまり要塞というか、つまり実際に撃つための大砲ではなくて、一つのなぐさみもの、つまり一つの飾りで置いているのだろう」と。そしてこの桃節山の説明には、買いに行きましたとか、売っ



元治元(1864)年撮影。イタリア人写真家F・ペアトによる写真
「グラバー邸の砲台の景色」



慶応元(1865)年、ねずみ島でピクニックを楽しむ居留地の人々

ていたとか、商品だということは一言もありませんから、この写真はこれからもっと正しく紹介していかなければならぬと思っています。結論から言いますと、大砲は商品ではなくて、トマス・グラバーの財力を顯示する裝飾的なものだったと思います。

実は最近、このような写真も見つかりました。これはトマス・グラバーの子孫が持っていた小さな写真の一枚で、同じように旧グラバー住宅の前の庭で、この写真では長崎の港に多くの船が停泊していることが分かります。そしてここに大砲があります。グラバーらしい人物がそこに座っています。

まず一つはこの庭園の美しさです。日本庭園をつくっていて、いかにグラバーが貿易、商売で成功していたかというのが分かります。アップで見てみると、大砲があって、ここに若い日本人女性らしい姿があります。この女性、キャプションも何もなく推測するしかないですけど、この当時、トマス・グラバーは加賀マキという女性と付き合ってて、後ほど御紹介したいと思いますけど、息子のグラバー・富三郎が2人の間に生まれていますので、この女性は加賀マキではないかと思われます。

実はトマス・グラバーには、確認できる子供が4人いました。2人が赤ちゃんのうちに亡くなつて2人だけが大人になったんですけど、4人の異なる日本人女性が子供のお母さんです。ですから、トマス・グラバーがその後、活躍する鍵の一つが、日本人女性との深い付き合いというか、つながりで、彼女たちからいろいろ日本語とか日本の文化を学んだということもあったのではないかと思います。

この写真はねずみ島という長崎の港外で撮ったもので、外国人たちが多分ピクニックに出かけているところが写っています。これもまだ分析中ですけど、

多分、当時長崎に滞在している外国人のほとんどがこの写真に写っているのではないかと考えられます。

真ん中を見ますと、ここにウィリアム・オルトという人がいます。グラバー園に旧オルトの住宅があります。このウィリアム・オルトというイギリス人は、グラバーと同じ頃に長崎に来て、日本で大変活躍して、岩崎弥太郎と深い関係があって、三菱の創設にも関わった人ですけど、今ではほとんど知られていません。

写真を見ると、ワンちゃんを膝に抱えていて、多分日本で最初のヨークシャーテリアじゃないかと思います。後ろに奥さんが写っています。あとはオランダ人医師のボードワンや英國領事のガウワーなどが写っているぐらいしか分かりませんが、ここにいる足を伸ばしていて、横着そうな格好で足に帽子をかけている若い人物がトマス・グラバーです。この写真を見ると、ここにも武士風の人がいますけど、この人たちはお客様や顧客ではなくて、奉行所から派遣された警備員で、外国人が変なところに行かないようにとか、邪魔されないようにという役目についてきていて写真に収まったと考えられます。

グラバーと坂本龍馬

この当時一つのポイントとして、多分、幕末の志士として坂本龍馬の名前が一番最初に浮かんできますけど、そしてよくいろんな資料でグラバーと坂本龍馬がセットで紹介されることが多いんですけど、実は誤解が多いんです。

まず、一つは、グラバーと龍馬が会ったかどうかさえ分からない。資料が非常に少ないです。二人が

一緒に写っている写真などは1枚もない。手紙などでお互いに名前を書いているということもない。二人の関係についてはこれからの私の研究テーマの一つです。

一つ言えるのは、トーマス・グラバーは坂本龍馬より年が2つ下でした。イメージとして写真を並べるときも、晩年のグラバーの写真と、格好いいポーズを取っている龍馬の写真が並ぶんですけど、本当は若者同士の出会いであり、若者同士がお酒を酌み交わして言葉の壁を越え、お互いに利益があるような商談をしていく、そういう時代でした。年配のイギリス商人が日本の若者を援助したことではないと思います。まさにこの当時は若者の時代だったと思います。

何かその時代の貿易関係の資料をと考えて、英字新聞から1枚コピーをしてきました。為替レートについて書かれています。幕末、明治の初めにおいても、為替、つまり日本の銀貨と欧米人が持ってくる銀貨のレートというのが貿易の上で非常に大事なポイントで、それを決めないと商売ができませんでした。見ると、ここにロンドン、上海、香港などのレートなどが書いてあります。そしてここに「BOO」というのがあります。これは何かというと、一分銀のことです。そして、天保、天保、両というのがあります。そしてそれぞれのレートである100ドル当たりどのくらいかを書いております。その下にあるのは長崎から荷物を送るときの運送のレートです。これが新聞を手に取る欧米人たちにとって非常に大事な情報でした。その一分銀がどんなものだったかというと、天保に発行されたもので、外国人が持ってくるのは主にメキシコドルと言われるものです。何でメキシコドルかといいますと、メキシコドルは純度が割と高かったものですから、お互いに確認し合って、一分銀とメキシコドルの重さでレートを決めていたということです。

幕末の時代、長崎貿易ではお茶が日本のメインの輸出品でした。この写真は後の時代のもので、ちょうど茶葉を梱包して出荷する準備をしているところで、長崎から輸出するものの多くが農産物、海産物でした。幕末の初期の頃、すなわち安政



英字新聞『ナガサキ・タイムズ』に掲載された為替レートなどの情報



茶葉を梱包して出荷する準備をしているところ

開港後に輸入していたのは、とにかく江戸時代から日本人の需要が高かった布類、インドの布とかビロードとかコットン、あるいは金属、香辛料など、こういうものがメインでした。しかし、幕末の真ん中あたりから、一番重要な、そして高い値段で取引されたものは何かというと、中古の船です。この取引でトーマス・グラバー、ウィリアム・オルトなどが貿易をして一獲千金を得ていきます。そこで、西日本の各藩からこれらの藩士たちが、とにかく船が欲しいと長崎にやってきました。新しい時代を迎えて特に貿易をするには船がなくてはならなくて、日本には蒸気船などなかったものですから、それを買いたくて長崎にやってくる人が非常に多かったんです。

その中に、もちろんご存知の海援隊の武士たちがいました。この写真では真ん中に坂本龍馬の姿があります。この海援隊は土佐藩の脱藩武士たちの集まりだったんですけども、ご承知のように龍馬は、長崎で亀山社中という海外貿易を目的にした西洋風の会社を立ち上げました。とにかく海外から非常に珍しいものが入ってくるし、それを買い付け、そして土佐藩の農産物などをいかに高い値段で海外に売ることができるかという取引でしたけど、言うまでもなく言葉の壁が大きかったですから、少しでも英語ができると有利ということで、海援隊がこういう書物をつくって、坂本龍馬たちが一生懸命英語を学んで言葉の壁を超える姿をこの資料を通じて見ることができます。

その中を見ると、こういうふうにいろんなローマ字の書き方があって、それを学んでいく必要があると。それから、日本の漢字に対して、例えば「星」というのが「star」という言葉だというふうに坂本龍馬たちも一生懸命勉強をして、そして外国人と拙い英語で話をしていたというその姿が目に浮かびます。

グラバーはスコットランド人

その相手の一人が、若いスコットランド人のトマス・グラバーです。アバディーン出身、つまりスコットランドでも北のほうの出身だったんですけど、21歳の若さで、スコットランド系の貿易会社、すなわち、最初はジャーディン・マセソン商会の長崎支店で事務員として働くために長崎へきました。そして、マッケンジーという先輩の下で2年ぐらい勉強して、その後彼はグラバー商会という会社をつくります。そして、あっという間に頭角を現して、外国人コミュニティーの中心的な人物となり、日本の近代化に大きく貢献していくことになります。先ほどの写真でも、若いのにもかかわらず彼が一番真ん中に座って、横着そうな格好という表現を使いましたが、彼にはそのぐらい自信があったというか、みんなを引っ張っているという雰囲気がありました。

彼はスコットランド出身です。スコットランドというのは、ご存知のようにイングランドの北に位置する国と言っていいと思います。日本ではイギリスという一つの言葉で表しますけど、英語ではユニテッド・キングダム（UK）と呼ばれるように合衆国であり、イングランド、ウェールズ、スコットランドと北アイルランドから成ります。このスコットランドというのは、実は非常に独特の言語を用い、そして文化、人種も実はケルト系で北欧の影響が強い。イングランドとはいろんな違いがあります。

実は私自身のバーグラフニという名字はアイルラ

ンド系の名前で、私の祖父がカナダにアイルランドから移民をしたんですけど、一方、母親はスコットランド系ですから、私には少しそのスコティッシュの血が流れています。

実は古くからイングランド人というのはスコットランド人に一種の恐怖感を抱いていて、この現在の国境の近くにこのハドリアヌスの長城というのがあります。中国の万里の長城が有名で、この長城はあまり知られていませんけど、イギリス版もあるんです。これはローマ帝国でハドリアヌス帝が3世紀につくったものんですけど、これには意味が2つあります。

一つは、ローマ帝国の北限を示すことで、もう一つは野蛮なスコットランド人の襲撃を防ぐためでした。ちょうど中華民族がモンゴルの人たちの来襲を恐れて万里の長城を造ったのと同じです。

一方、スコットランド人というのは、これはグラバーの紹介にもなりますけど、冬が非常に厳しい寒い国で、イングランドに比べて農産物もそんなにたくさんとれないし、非常に荒々しい環境なんですけど、スコットランド人は物すごいハングリー精神というか、物すごいやり手の人が多いんです。近代を見ると、スコットランドからアメリカ、オーストラリア、そしてアジアに多くの人を輩出していて、その人たちがいろんな場面で活躍しています。日本ではそれらの人全部がイギリス人という一つの言葉で整理されてしまうんですけど、これから日の日英関係の中ではスコットランドには注目して、しかも、このようにトマス・グラバーをはじめとするスコットランド人たちとの深い縁を私はこれからも生かしていきたいなというふうに考えています。

ところで、このハドリアヌスの長城も、この写真ではかなり残っているんですけど、結局、石を建材に使われたりして、部分的に今は消滅して、万里の長城のように宇宙から見えるようなものではないんですけど、あまり知られていないイングランドとスコットランドの関係を示すものとして部分的に現存しています。

グラバー邸はオランダ屋敷

先ほどスイス人写真家であるロシエが撮った埋立て工事の写真を見ていただいたんですけど、その埋立て工事が完成して、このように外国人が住む居留地が出現します。そして、南山手の山の上に大きな松の木をそのまま残して、グラバーが自宅を造っています。



トマス・B・グラバー（1838-1911）



外国人が住む居留地

この建築スタイルについて一言お話をしますと、これを日本では洋館というふうについて言ってしまうんですけど、このような建物はヨーロッパのどこを探してもないようなものです。言わば、日本の伝統建築と西洋の伝統建築が融合したようなものです。例えば、この建物は日本の瓦屋根が使われた寄棟式のもので、日本人大工が日本の建材を使って造ったものです。しかし、一方では煙突があって、石炭を燃やす暖炉を必ず設けています。ですから、西洋人たちのニーズを聞いて、そして日本人の大工がそれを理解して、言葉の壁を越えてそれらの要求を吸収して、そしてこの建物を建てています。ですから、グラバー邸は日本の中でも西洋の建築と日本の建築の出会いを示す非常に貴重な場所だと思います。

これはまた余談ですけど、一言申し添えますと、神戸の旧外国人居留地のところに異人館というのがあります。長崎では異人館という表現は全然使っていません。どういうふうに長崎で呼んでいたかというと、オランダ屋敷です。これは長崎独特の言い方でした。

皆さんは長崎市内に観光にお出かけになると思いますけど、有名な名所の一つにオランダ坂というのがあります。何でオランダ坂とかオランダ屋敷と呼ぶのかというと、これらをオランダ人がつくったということではありません。それらは全部明治になってつくられたものです。その時代はもう「オランダ人がほとんどオランダ」、そういう時代です。すいません、またやってしまいました。ごめんなさい。

つまり、長崎の人々は私のような外国人を、「異人」ではなくて、「オランダさん」というふうに呼んでいたんです。考えてみますと、オランダ人は江戸時代の出島の時代から大切な貿易パートナーで、相手に対して排他的なニュアンスの言葉はまず使いません。彼らがいてくれることで私たちの生活が

あるというものでした。明治になんでもそういう気持ちちは同じで、長崎ならではの言い方として、外国人居住地の中の坂のことをオランダ坂と言っていました。これが横浜ですと異人坂という表現になってしまいます。西洋料理ですけど、オランダ料理。外国人が埋葬されている墓地はオランダ墓地。いろんな国籍の人がいるけどオランダ墓地です。それに当てはまる者、外国人から見れば非常に温かいものを感じます。「外人」とか「異人」と言われるより、「オランダさん」と言われたほうが、同じ釜の飯の仲間扱いを受けています。私がこのように長いこと長崎を離れないでいるのも、長崎というところはそういうふうに外国人を受け入れる姿勢というか風土が古くからあるからだと言えます。

これを旧グラバー住宅と今は呼んでいますけど、この松の木というのが非常に特徴的です。グラバーが温室などをつくったときにもそれを囲むように配置して、まるで家の中からそれが出ているように見えたんです。これは松くい虫にやられて伐採されて、残念ながら今はもうなくなっています。株だけを床下に見ることができます。「IPPONMATSU」と、こういうふうにローマ字で書いて、外国人たちも「一本松」と言ったらグラバー邸のことだと分かる、代名詞のようなものになっていました。

グラバーというのは、実は歴史学的に見るとまた研究者がみると非常にいらいらする人なんです。本人の自伝もなければ回想録も書いていない、手紙類も非常に少ないですから、彼のいろんな活動を把握するのには非常に苦労します。しかし、その中で、英國領事館の資料の中にこの1ページを見つけて、僅か5行ですけど、グラバーのことを少しかいま見ることができます。情報がありました。



IPPONMATSU と呼ばれたトーマス・グラバーの自宅

グラバーと薩摩藩

それは何かというと、モリソン英國領事が、幕末の生麦事件を受けて薩摩藩とイギリスが対立して薩英戦争という短い戦争になりました。モリソンはすごく神経質だったので、このとき自分が暗殺されるのではないか、薩摩藩の武士たちが襲ってくるのではないかと心配していたんです。そこで彼がグラバーからいろんな情報を得たというふうに報告しています。これがその僅か5行です。

Mr. Glover is fluent in the Japanese language.

皆さん私が英語を忘れたと多分思っておられると思いました。今、あえて英語で言ってみました。訳を付け加えますと、こういう意味です。グラバーは日本語が fluent——流暢、そして、intimacy and friendship——非常に日本人の武士クラスの人と親しく付き合って友達になっている。Japanese of rank というのは、高いランクの日本人、つまり士族、武士たちという意味ですね。そして一番びっくりするのが amongst whom he is much esteemed——彼らに尊敬されているということが書いてあります。どうして二十四、五歳の若いスコットランド商人が尊敬されるのか、私としては非常に考えさせられる文言なんですね。

考えてみれば、当時、幕末の日本には士農工商という非常にはっきりとした身分制度があって、商人は一番下のランクでした。決して尊敬されるものではなかったと思います。これは推測でしかありませんけど、グラバーがとにかく無言実行というやり方で、約束をすれば絶対守る。そして、言葉は少ないですけど、その言葉には真実味があると。若い武士たちがそれらを感じて、この男であれば信頼できると、双方の間でそういう人間関係を築いていったのではないかと想像することができます。

そういう中で、彼に頼ってお願いする人が非常に多かったんです。もちろん貿易で協力してほしい、グラバー商会との間で様々な取引を展開していくけど、さらに、海外に行きたいから協力してください、手伝ってくださいとグラバーに申し出る人も出てきます。長州五傑、つまり伊藤博文たちが有名ですけど、これを今日あえて紹介しない理由は、グラバーの関係が間接的なもので、グラバーが伊藤博文たちを助けたかどうかは、まだ確認しないといけない部分があります。

グラバーと五代友厚

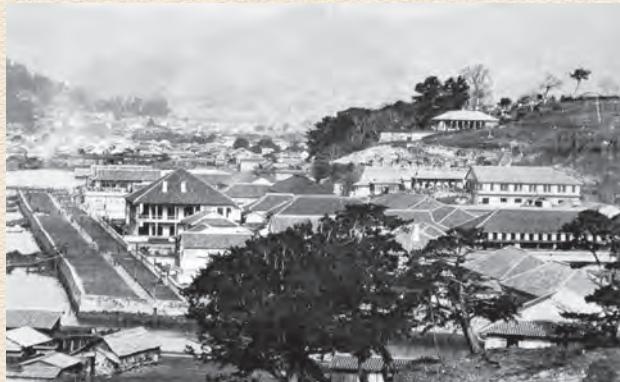
しかし、この薩摩藩の使節団に対してははっきりとしたグラバーの関わりがあって、彼が船を用意して、グラバー商会の商會員を同行させたことが知られています。特にその中で五代友厚とグラバーには厚い友好関係があって、グラバーが五代にいろんな協力をして、また逆に五代がグラバーに様々な依頼をして、その後二人はまさに二人三脚の関係を築いていきました。残念ながらこれも資料が非常に少なくて、これから研究に期待するところです。

この五代友厚は、とにかく薩摩藩を中心に日本の近代化を図るために、イギリスで行われ、一つの現象となった産業革命の様々な技術全般を日本に取り入れないといけないということを考えました。まず、グラバーを頼って奄美大島に製糖工場を造ったり、その後、薩摩の使節団でイギリスに行って紡績の機械類などを買って、集成館事業をどんどん発展させていきました。五代さんがいなからたらグラバーはもちろんそれはできなかつたし、グラバーなしでは五代さんもなかなかできなかつた。二人の強固な取組によって時代の基礎をつくったというイメージです。

グラバーと蒸気機関車

特に産業革命の特徴の一つである蒸気機関、鉄道であれば蒸気機関車、これが革命における不可欠の機材でした。つまり、機械を使って大量生産を図るというシステムです。この蒸気機関を開発したのはジェームズ・ワットという人ですけど、案の定、スコットランド人です。まさにグラバーがワットの跡を継いで、この産業革命の技術、そして蒸気機関を日本に紹介していくことになります。

この写真は大浦界隈、外国人居留地の商業地区ですけど、ここにバンドと言われる海岸通りがあります。600メートルぐらいの短い通りですけど、グラバーが非常に早い時期、1865年、つまり慶應元年に、ここで蒸気機関車、小型の鉄道の実験をしています。この実験によって初めて蒸気機関車が多く日本人の目に触れることになり、一大センセーションを巻き起こし、長崎近郊から多くの人が集まって大変なことになったようです。もちろんこの時代は、大きな船は長崎港には接岸できないし、フルサイズの大きな蒸気機関車を上陸させることはできませんから、これが参考の写真ですけど、言わば、こうい



慶応元(1865)年5月グラバーは、大浦海岸通りで
蒸気機関車の試運転を行った



日本初の鉄道路線である新橋駅～横浜駅間は明治5(1872)年に開通

う遊園地で見るような小さいものだったんですが、それできちんと車を引っ張って行ったり来たりすると、子供たちはこれらのことについて奇声を上げ、すごいことになったようです。

実はこのグラバーの試運転のうわさが横浜まで広がりましたが、しかし、辛口の評価でした。これが「Japan Times」という英字新聞に載った記事で、その試運転が行われたことが史実を確認できますけど、グラバーをばかにするような書き方をしています。長崎では——これは日本語訳をしていますけど——長崎では日本人の娯楽のために、鉄道を使ってたわいもないようなことが行われたが、それはかわいいおもちゃに過ぎず、何年たとうとおもちゃのままであろうと。横浜に住んでいる、東京に近いところに住んでいる欧米人たちは、日本にはまだまだ鉄道なんかできっこない、そんな鉄道に関する技術を習得するのにこれから何十年もかかるだろうと考えていたことが分かります。だから、グラバーは何でそんなことをするのかという言い方をしていますけど、御存じのように、僅か7年後に横浜～新橋間に最初の鉄道が敷設され稼働して、その後、日本全国にどんどん鉄道が広まって、明治時代における日本の驚異的な発展に不可欠な交通手段となっています。

グラバーは自腹でお金を出して鉄道の試運転をしたんですけど、彼は日本人がすぐにこれを学び取る

だろうと。そして、それは自分にとってもプラスになるんですけど、日本の産業にも大きな影響を与えるだろうと。グラバーがきちんとそれらを予想していたことが分かります。

その後、グラバーが蒸気機関を導入したのは、先ほど話しました、奄美大島で黒砂糖を白砂糖にする施設です。これは五代友厚が提案して、薩摩藩とグラバー商会が共同で奄美大島の4か所に工場を造って、大量生産に成功します。その後、鹿児島の紡績工場ができます。これも五代友厚がマンチェスターから機械類を持ってきて、集成館事業の一つとして開設しています。

そして、長崎では、小菅修船場——船を修理する施設、そして有名な、日本における最初の近代的炭鉱である高島炭鉱、これは全部グラバー商会が関わっています。そして蒸気機関をイギリスから持ってきて設置して、その使い方については専門家を呼んで指導しています。つまり、グラバーは技師ではないし、専門知識があるわけではないが、彼がこれらのことについて仲介役を果たしたことが重要なポイントなんです。

この奄美大島の製糖工場は、残念ながら歴史の闇に消えてあまり知られていません。僅か数年で頓挫をしてしまったんですけど、考えてみると、幕末の薩摩藩が外国の会社と手を携えてこれを造ったということは、世界史的に注目すべきことではないかと考えます。

これが年表ですけど、紡績工場については、五代友厚がグラバーの協力を得てイギリスに使節団として行って、機械類及び専門家を連れて鹿児島に戻って、日本で初めての大量生産の紡績工場をつくっています。現在、鹿児島に行きますと、その専門家たちが住んでいた、いわゆる技士館と呼ばれる建物が公開されています。小菅修船場については、同じようにボイラー室にエンジンを入れて、そしてこの斜



小菅修船場

めのところに船を引っ張り上げて修理をするという画期的な施設です。造船場ではないんですけど、日本の造船業が産声を上げたような場所です。

この写真は横から見たところで、こういうふうに船を引っ張り上げて、ペンキを塗ったり、傷んでいるところを直したりすることができました。これは、チェーンをつけて引っ張り上げる蒸気機関がなかったらできないものです。現在も、それがそのままきれいに保存されています。特にフェンスもゲートもなくて、昼間の時間は開いていますので、いつでも見ることができます。これも旧グラバー住宅と一緒に世界遺産に登録されている施設です。

高島炭鉱も、英国人たちは早くに高島で石炭を掘る現場を目撃していたんですけど、非常に原始的なやり方で、ただつるはしで削って、そして集めて、穴がある程度深くなったらもうそこはやめて別のところにするという形でしたが、蒸気機関を使って豊坑という穴を掘って、深いところからそれを引っ張り上げるというイギリスのやり方によって大量に石炭を掘り出すことができます。そして、それを港まで蒸気機関を使って運ぶことができる。そこで石炭というのが明治の長崎の地域経済の一つの大黒柱になって、結果お茶に代わって石炭が主な輸出品になり、言うまでもなく、日本の近代化のための不可欠な燃料になっていきました。

英字新聞で、この高島炭鉱の広告があります。1トン当たり4～5ドルと。これは先ほどの洋銀——メキシコドルの銀貨ですけど、Glover & Company——グラバー商会がこういうふうに外国の船向けに打っていた広告です。その後、高島の奥に端島という小さな島が開発されました。それが今の軍艦島で、今では観光客も上陸できるようになっています。

端島については、グラバー園を代表する者として少し不満があります。いろんなところで長崎の観光を代表する写真として軍艦島が取り上げられますけ



明治2(1869)年、スコットランドを出港する前の「常勝丸」

ど、端島よりグラバー園のほうが上じゃないかなと訴えたい気持ちもあります。私は端島に何回も行きましたけども、廃墟であり独特の退廃の美のようなものはありますけど、長崎に来た観光客が一番感動するのはグラバー園であり、同園こそが観光客に多彩な歴史を感じさせられるところではないかと思います。私たちはそのことについて、大いに情報発信をすることが必要だと考えています。

これはもしかしたら皆さん御存じないかもしれませんけど、常勝丸という装甲艦です。トマス・グラバーのふるさとのアバディーンで建造された軍艦で、それを日本を持ってきました。発注したのは熊本の肥後藩です。しかし、同艦が日本に着いたときは肥後藩がいよいよ熊本県に変わった時代で、その混乱の中で相手方の肥後藩が支払いができないなって、この船に係る取引によってグラバー商会は倒産してしまいます。

これが同艦が長崎に着いた後の写真ですけど、1,500トンの圧倒的な大きさでした。結局、長崎で日本の帝国海軍に献上され、龍驤艦という名前になって、日本帝国海軍の第1号の軍艦になりました。明治天皇もこれを旗艦として使っておられたんですけど、グラバー商会はこの船によって借金だらけになって倒産をして、結局、負債を返すのにグラバーはその後5年間も各地をいろいろと奔走することになります。

しかし、言うまでもなく、このことはグラバーが失敗したとか悪いことをしたというより、時代の変化の中で大変なことになったというわけです。そして、幕末のときから志士たちが、グラバーさんに悪いことしたなという思いから、彼を全面的に支えていくことになります。彼は、その後もずっと借金返済をして、長崎から東京に活動の場を移して、どんどんさまざまな活動をしていきます。

グラバーの業績の数々

彼の業績の一つが、大阪の造幣局の設立に関わった事です。香港の機械を五代友厚を通じて彼が購入して、そして大阪まで運んで設置して、ここで日本円という日本の新しい貨幣がつくられるようになりました。このことにトマス・グラバーが深く関わっていたことも意外と知られていません。

もっと知られていないのは、日本名で浜田彦蔵という人物とのかかわりです。彼には非常に面白い背景があって、兵庫県出身んですけど、13歳のとき、日



ジョセフ・ヒコに贈呈したサイン入り大判

本で漁師をしていたところたまたま漂流をしてしまって、アメリカの船に救助されてアメリカに行って、結果若い時期をアメリカで過ごし、アメリカの学校を出て、幕末に日本に戻ってきました。当然のことながら、彼は英語を流暢に話せて、もちろん日本語もできたので、通訳として活躍をすることになります。彼が慶應2年にグラバー商会に入って、その後まさにグラバーの右腕として活躍をしたのです。

このような資料も見つけました。説明に書いてあるとおりですけど、大判で、トマス・グラバーが浜田彦蔵——ジョセフ・ヒコと名のっていたんですが、彼にあげたもので、よく見て見ると、グラバー商会が倒産した年の12月に彼に渡しているんです。これがまたグラバーの懐の深さというか、一番大変な借金をしているときに高価な大判を友達にあげていること自体、そして、多分、お世話になったジョセフ・ヒコ——浜田彦蔵に対する感謝の気持ちを込めて書いています。

面白いことに、ここにトマス・B・グラバーのサインがあり、そして1870年と書いてあります。そして、このとおり、Almighty dollarと皮肉っぽく書いています。これを日本語で「万能のドル」と訳したんですけど、Almightyというのは万能の神というように使う表現で、これは明らかにグラバーが皮肉で言っています。つまり、グラバー商会が大きな負債を抱えて倒産してしまって、結局、お金というのは何なのか。我々はお金に振り回されて人生が台なしになった、多分そういう気持ちで言ったんだと思うんですけど、そういうことで高価な大判を友人に渡しています。

グラバー東京へ

今話しましたように、とにかく日本人がグラバーを見離すはずはなく、岩崎弥太郎、岩崎弥之助兄弟が経営する三菱が彼を歓迎して顧問に迎えます。そ

の後、グラバーは東京の真ん中の芝に家を構えて、そこから長崎と行ったり来たりして、三菱社の発展に大きく貢献していきます。

その活動の一つを御紹介したいと思います。キリンビールです。

最初、キリンビールという会社は、ジャパン・ブルワリー・カンパニーという外国人たちがお金を出し合ってつくった株式会社です。横浜の居留地の中に前からあったスプリング・バー・ブルワリー——最近、キリンビールがスプリングバーというおいしいビールをつくっていますけれども、そこから名前が来ています。その施設を全部買い取って、そして建物を新しくして、ジャパン・ブルワリー・カンパニーという会社を築きまして、グラバーがその最初の社長として奔走します。いつもの彼のやり方です。つまり、日本側と欧米との仲介をして、ドイツから専門家を呼んだり、新しい機械、必要な機材などを導入したりして、そして日本人の友人たちから投資を集めました。

これはある書物で紹介されていますけど、グラバーは明治屋に協力してもらってビールの販売をして、そして、ラガービールが誕生することになります。これが最初のラベルの図柄です。

ジャパン・ブルワリー・カンパニーと英語で書いてあります。そして、横浜のブルワリーで瓶詰めにされたと。そして、当初キリンビールではなくてラガービールと書いてあります。キリンという言葉がいつぐらいの時点から使われたかは分かりません。

実はこの図柄は非常に評判が悪かったんです。これは犬なのか何なのかといろいろ言われて、これを見直す必要があるという意見が最初から出ていました。そこで、グラバーが新しいデザインを提案することになります。それが今おなじみのキリンビールのデザインです。実はキリンの会社の議事録の中に、グラバーがその図柄、絵を持ってきたという記録はあるんですが、誰が書いたのか、もともと何なのか、何に基づいたのかは実はよく分かりません。これからも調べないといけないところがありますが、皆さんのが現在よく見るこういうラベルになっています。

グラバーは晩年にグラバー邸に頻繁に帰ってきて、旧グラバー住宅の前でこのように娘の結婚式が



ラガービールのラベルの図柄



明治30(1897)年1月 ハナ・グラバーの結婚式

行われました。娘ハナと息子の富三郎がここに写っていて、2人の子供がいます。このハナのお母さんがツル夫人で、長年、グラバーに付き添っていた女性です。2人は正式には結婚していない。もしかしたらそれは彼女が望んだことかもしれません。外国人と結婚すれば日本の国籍を放棄しないといけなくて、どうせ日本にいるからそんなことをしなくていいと彼女がお願いしたかもしれない。グラバーがその後、スコットランドに一度も帰らなかったのはツル夫人の影響もあったのではないかと思います。

私の妻は福岡県の八女の出身です。私も日本人女性の尻に敷かれていますので、グラバーの気持ちはよく分かります。

明治日本の後ろ盾、グラバー

グラバーはこういうふうに日本を一度も離れないで長崎と東京を行ったり来たりして、1人の明治の英雄のように多くの日本人、とりわけ幕末の旧志士たちに愛されていた人物です。

この写真は日露戦争後の祝賀会で、真ん中にいるのは東郷平八郎元帥です、対馬の海戦で活躍した、



明治38(1905)年、グラバーと東郷平八郎元帥

当時としては大変な英雄です。岩崎弥之助の別邸で祝賀会が行われて、彼の真後ろにトマス・グラバーがシルクハットをかぶって立っています。日本語に後ろ盾という言葉があると思いますけど、たまたまちょうど真後ろに立っているように、本当に其の意味で明治日本の後ろ盾という役割を果たしたグラバーが、この写真でちょうどその場所に立っているようなものです。

そして、1908年にグラバーは勲二等旭日重光章を受章しています。これは外国人の政治家や王室関係の人なら分かるんですけど、一人の商人に与えられたものとしては破格の勲章です。それだけ彼が日本人に尊敬されていて、そして日本国が彼に感謝する気持ちがあったことが分かります。

この写真、実は最近発見されました。カナダの資料館にあって、グラバーが写っているということが分かって話題になって、NHKも取り上げてテレビ番組にもなったんですけど、グラバーの東京の家で、日本人の友人たちが来て一緒に写っている写真です。この狛犬も、その後、長崎に持ってきて、グラバー園に今現在、保管されています。

ごめんなさい、そこに座っていいものなのか、神聖なものじゃないかという感じがしますけど、今、グラバー園の学芸員たちなどが分析をしたところ、これは三菱関係の人物で、炭鉱などに関わっていた人たちがグラバーを訪れて撮ったスナップであることが分かりました。このように、まだまだこれから関連の資料、写真などがどんどん出てくることもあるだろうなと、今、期待しているところです。

グラバーが、1911年、明治44年に73歳で亡くなって、そして、このように東京で葬儀が行われて、その後、彼の遺骨を長崎に持ってきて、長崎の坂本国際墓地に埋葬されています。



トマス・グラバーの旧友たち

息子 倉場富三郎

息子の倉場富三郎がこのように葬儀の通知を出していますけど、友人である、井上馨、山尾庸三、この2人はいわゆる長州五傑の2人です。伊藤博文も生きていれば当然名前があったはずですけど、その前の年に暗殺されています。そして、岩崎久弥と第3代三菱の社長なども名前を並べています。トマス・グラバーという男の明治期の日本との関係をこの葬儀の通知書にも見ることができます。

その後、息子の倉場富三郎——倉場富三郎という名前は、倉場というのは明らかにグラバーを漢字にして、そして日本国籍を取って倉場富三郎と名乗るんですけど、日本人女性との間に生まれた彼は、長崎で活躍して地域経済に大きな貢献をしていく人物です。

しかし、太平洋戦争で苦労することになります。この由緒ある家を三菱造船場に売って、南山手の下のところに奥さんのワカ夫人と一緒に移ります。この写真が2人の最後の写真かと思ったんですけど、最近、グラバー園で次の写真を見つけて、これがいろいろな意味で重要な資料になっています。

これは1941年、つまり家を売ってから2年がたった後に撮影されたものですけど、ちょうどグラバー邸の温室の前で撮影をしています。もう既に2年前に家を売っているんですけど、倉場富三郎の隣に座っているのが三菱の第4代社長の岩崎小弥太です。この方は長崎市長の岡田壽吉という、もともと三菱造船場の幹部職員で、立候補して長崎市長になった人です。あとの方も、みんな三菱長崎造船場の幹部の人たちです。

実はこの時点で家を売らないといけなかった理由の一つが、三菱長崎造船場で例の戦艦武藏が建造されていたことです。今でもグラバー園に行っていただきますと、旧グラバー住宅から長崎湾が丸見えで、造船場を一望にすることができる。それを嫌った憲兵隊が富三郎たちを追い出したのではないかという説がありますけど、この写真を見ると、追い出されたとかじゃなくて、自分がそこに住んでいると周りに迷惑をかけるから譲りますと自分の方から進んで売ったのではないかという結論に至ります。そして、三菱関係とグラバー家の関係は依然として非常に友好的だったことがこの写真から明らかです。

びっくりするのは日付です。写真の裏に書いてあるんですけど、11月29日、つまり真珠湾攻撃の約10日前に撮影された、長崎の最後の平和の写真という感じがします。

戦時中を耐えて、奥さんが亡くなつて独りぼっちになったんですけど、倉場富三郎は戦後直後に首つり自殺をしています。岡田壽吉市長も、戦後、家族を原爆で失つて自殺しています。岩崎小弥太も終戦の年に、あまりのストレスの大きさに倒れて帰らぬ人になりました。ですから、本当に今言いましたように、長崎の最後の国際交流、国際理解、平和のスナップのように思える1枚の写真というわけです。

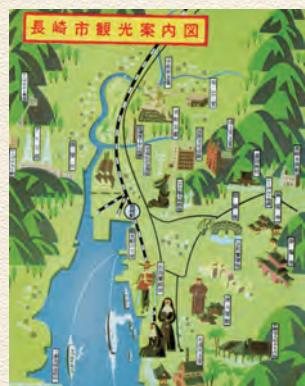
グラバー園と進駐軍

その後グラバー園がどうなったかというと、進駐軍が長崎にもやってくるんです。進駐軍がグラバー邸を接収して、家族で住むことになります。ここに最後に住んでいたのがゴルズビーという人です。この写真はアメリカで発見したんですが、裏にこのようなことが書いてあります。

Madame Butterfly house.

皆さんは、もしかしたらグラバー園とかグラバーというと何となく蝶々夫人のイメージがあるかもしれませんけど、最初にこの家のことを蝶々夫人云々と言ったのは進駐軍の人たちです。あくまで遊びで、長崎の港を見下ろしているとあのオペラを彷彿とさせるというその程度のことで、グラバーのことも長崎の歴史のこともきちんと理解せず、遊び半分でつけたんですけど、残念ながらそれがその後定着していきます。

進駐軍が去った後、この地が観光地になったときに、それがキャッチフレーズになります。面白いということで、こういうふうに蝶々夫人ゆかりの地などと言われ、グラバーの名前がどこにもなく、グラバーに関する研究も全然進まなかった時代です。これが長崎のいろんな観光名所を示す資料で、いろいろと書いてあり、大浦天主堂などもありますけど、旧グラバー住宅とか日本の近代化に貢献したトマス・グラバーの旧宅ではなく、お蝶夫人ゆかりの地となっています。これがグラバー園が開園するまでずっと続きました。最近、オーバーツーリズムという表現が注目されて、観光産業のやり過ぎという問題で、ある意味、これも結局、観光客をできるだけ誘致したい、喜



観光案内図

ばせたいということで、史実、真の歴史というのがいつの間にか隠れてしまった一例ではないでしょうか。

グラバー住宅は世界遺産

その後、旧グラバー住宅は修復工事が行われまして、そして国の重要文化財の指定を受けます。その報告書の中にグラバー邸のビフォーアフターの写真がたくさんあって、修理を受ける前の姿を見ることができます非常に貴重な資料になっています。実はその報告書の中に、この文言もあります。例の隠し部屋についてです。グラバーと幕末の志士の話でよく出てくるのが旧グラバー住宅の隠し部屋で、龍馬がそこに隠れたのではないかと言われています。この間も私がグラバー園を用事があって歩いていたら、観光客に横のほうから「龍馬が隠れたところはどこですかね」と聞かれまして、それには根拠がないと言う答は非常に気の毒で申し訝ない気持ちになりました。しかし、これは都市伝説程度で歴史的な根拠が全くありません。それは報告書できちんと確認しています。

つまり、最初からそのようなスペース、幕末の志士が隠れるような部屋はなかったということです。その証拠として、ここに倉場という名前が床の板に書いてあります。倉場というのは、先ほど紹介しましたけど、グラバーの息子が日本国籍を取ったときに名のった名前です。つまり明治20年代で、幕末の志士たちの頃は、隠し部屋といわれる部屋がそもそもありません。

そして実は、考えてみると、今でいう大使館みたいに居留地には治外法権というものがあって、日本の警察が勝手に居留地の外国の家に入ってくることはできない時代に、志士がそもそもそんな狭苦しいところに隠れる必要はありません。これも結局、郷土史家たちが、そういうふうにしてみようとか、それ面白いねと言っていたのが、いつの間にか独り歩きして、今に至って一つのイメージとしてあるのではないでしょうか。

以前はこういう隠し部屋の展示までしていて、逃げてきた幕末の志士が隠れたと言われていますと。私は名誉園長としていつも困っていて、人から「そう言われているけど、その証拠は何ですか」と聞かれて、「いや、一切ありません」と言わないといけないという情けないことがありました。

結局、これは根拠がないし、常識的に考えてあり得ないことで、今この看板も撤去して、昔というか、



梶川清彦氏による木版画

ある時期に、グラバー園の隠し部屋という都市伝説のようなものがあったということをグラバー園の一つの歴史として紹介しています。今後とも観光客に対しては、できるだけ史実に基づいて、本当はどうなのか、それをできるだけ情報発信をして訂正していきたいと考えています。

この旧グラバー住宅というのは、日本の重要文化財であるとともに世界遺産で、世界的にも注目されている建物です。波乱万丈の歴史があって、戦後も観光地としていろいろありましたけど、これからは、ここにもともと住んでいた人たちがどのような活動をして、特にトーマス・グラバーとその息子が長崎に住んで、日本の近代化にどういう貢献をして、日本人とどういうふうに関わっていたのか。そこに浮かんでくることが、日本語で言う温故知新であり、グラバー親子の、そして、そのほかの人物とのいろんな交流が、今、私たちが直面している新しい国際交流の時代の非常に重要なヒントになるのではないかと思います。ただ「へー、昔、そんなことがあったのか」じゃなくて、今私たちにとって役に立つ情報があることを伝えていきたいと考えています。

最後の1枚です。これは私が尊敬する版画家の梶川清彦さんの作品です。これをプレゼントしてもらって、トーマス・グラバーまたは富三郎の姿のようですが、しかし、私はこれを、これは私自身じゃないかなという思いでいつも見ております。

長崎には多彩な国際交流の歴史があり、日本人と外国人がこの小さな港町の中で、言葉の壁を越えて、共通の利益を追って、そして独特の折衷文化を醸し出していった。私はこの長崎が大好きで、これからも発信していきたい。ぜひ皆さんも、長崎の折衷文化、そしてトーマス・グラバーなどの人たちが日本に与えた影響についてもぜひ見ていただきたいと思います。

筑後地区会 定期総会・研修会・懇親会を開催

インボイス制度を再確認

令和5年7月11日（火）ハイネスホテル久留米にて、筑後地区会第34回定期総会、研修会および懇親会が開催されました。

総会は、議長に長谷会長が就き、第1号議案「令和4年度事業報告及び決算承認の件」について議長から説明があり、小坂田監事より監査報告がなされ、審議の結果承認可決されました。続いて第2号議案「令和5年度事業報告及び予算承認の件」についても議長より、会員の増強、親睦など積極的な意欲ある方針の説明があり、こちらも審議承認可決され総会は無事終了しました。

続く研修会では、MJS 税経システム研究所客員研究委員で税理士の佐々木京子氏を講師に迎え、「インボイス制度準備セミナー」の講義をしていただきました。いよいよ始まるインボイスについて改めてすっきりとまとめていただき、突入



前の頭の再整理ができ、大変ありがたい講義となりました。

懇親会では、来賓のMJS 九州沖縄圏統括部統括副部長兼福岡支社支社長・高木紀彦氏をはじめとするMJSの方々、研修会の講師の佐々木京子氏に出席をいただき、おいしい料理と飲み物で会場が盛り上がりいました。

（筑後地区会 江崎 洋介）

福岡地区会 定期総会・懇親会を開催

満場一致で承認



令和5年7月7日（月）午後4時より福岡地区会定期総会が福岡大名ガーデンシティ・タワーにおいて開催されました。

総会は川野総務委員長の司会により始まり、来賓の紹介が行われ、大松副会長が開会の辞を述べました。物故会員に黙祷を捧げてご冥福を祈りました。東会長の挨拶の後、議長選出に入り藏森会員が選ばれ、議事録署名人には山澤津会員と薄鍋会員が指名され、議案の審議に入りました。

議案1 令和4年度事業報告及び承認について
議案2 令和4年度決算報告及び承認について

川野総務委員長及び行時財務担当委員より事業報告及び決算報告について説明があり、柳武監事より監査報告がなされました。審議の結果承認されました。

議案3 令和5年度事業計画及び予算（案）承認について

川野総務委員長及び行時委員よりそれぞれ説明があり、審議の結果承認可決されました。

以上で議案審議が終了しました。

議長降壇後、来賓のMJS 鈴木統括部長が祝辞を述べられました。祝電が披露され、最後に外園副会長の閉会の辞により総会は無事終了しました。

総会終了後、料亭稚加栄に場所を移して懇親会が開催され、コロナ対策として密にならないように広く席を取り、新鮮な魚料理と銘酒で賑やかな懇親会となりました。

（福岡地区会 空閑 秀樹）

北九州地区会 定期総会・講演会・懇親会を開催

元号を大切に

令和5年7月4日（火）ホテルクラウンパレス小倉において、北九州地区会定期総会が開催されました。総会では第一号議案から第三号議案について審議され、すべての議案が満場一致で可決承認されました。引き続き行われた講演会では、西日本国史文化研究所の菊池満所長による「元号の歴史について」話がありました。

現在は天皇が即位すると新しい元号に変わりま



すが、地震や天災など世の中に大きな事件があると改元していく歴史や由来について、参加者は興味深く聞き入っていました。

た。大化から現在の令和まで248の元号がありますが、「元号は時代を知る物差しである。元号を大切にしなければならない」ことを私も再認識しました。

その後に行われた懇親会は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、従来どおりの規模で開催され、和気あいあいとした雰囲気の中で活気のある賑やかな会となりました。

今年度もボウリング大会、ゴルフ大会、研修会など多くの行事が計画されていますので、会員の皆様との親交を深めて行きたいと思います。

（北九州地区会 松尾 静二）



熊本地区会 研修会・定期総会・懇親会を開催

新執行部による初めての総会を盛大に開催

令和5年6月9日（金）KKR ホテル熊本において、研修会、定期総会、懇親会が開催されました。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたの集合型の研修会として、長迫木材（有）代表取締役 高見睦代氏による「経営者としての思考整理×経営」と題してご講演をいただき、整理収納の理論を学び、心と物を整えることで100年企業を目指す極意をお教えいただきました。

定期総会は、MJS 執行役員・九州沖縄圏統括部長 鈴木和人氏を来賓にお迎えし、午後3時15分から開催され、後藤副会長の開会の辞の後、碓塚会長（筆者）より1年目の会員皆様への感謝と2年目への決意をお話しし、その後、令和4年度事業報告及び決算・監査報告、令和5年度事業計画（案）及び収支予算（案）について各々詳細な説明があり、慎重審議の結果すべての議案について承認可決されました。



総会終了後は、同会場にてMJS社員の皆様と賑やかに、そして盛大に懇親会が開催されました。

新執行部による初めての研修会、定期総会、懇親会でしたが、すべて無事に開催することができました。ご多忙の中、ご出席いただきましたご来賓の皆様をはじめ、会員の皆様に深く感謝申し上げます。

（熊本地区会 碓塚 絵理子）

大分地区会 記念講演会・定期総会・懇親会を開催

事例を交えながら詳しく解説&久しぶりの懇親会

令和5年6月23日（金）、大分市のJ:COM ホルトホール大分にて九州ミロク会計人会大分地区会の第21回定期総会が開催されました。

定期総会に先立ち、MJS 税経システム研究所客員研究員で税理士の武田秀和氏による「相続時精算課税の本質を知る～相続が開始したときに驚かぬために～」をテーマとした記念講演会をハイブリッド形式にて開催されました。



講演では令和5年度税制改正の解説に始まり、相続時精算課税の本質について、武田先生ご自身の顧問先の事例などをたくさんご用意いただきそれぞれの事例について武田先生がされた当時の判断や処理方法などを分かりやすく解説していただきました。

講演終了後、午後4時45分より定期総会を開催しました。泉会長に挨拶をいただき同会長の議事進行のもと、議案審議に入りました。事務局より令和4年度の事業報告及び決算報告についての説明が行われ、審議の結果、全会一致で承認可決されました。続いて令和5年度の事業計画及び予算案、役員改選についての説明提案があり、全会一致で承認可決されました。議案審議の後、来賓からの祝辞と九州ミロク会計人会本部から第47回全国統一研修会（大阪大会）の紹介と案内が行われ、定期総会は無事終了しました。

定期総会後は、懇親会が大分センチュリーホテル「カテリーナ」にて開かれました。講演いただいた武田先生や来賓の方々、事務局やMJS 大分支社の社員も参加され、会場は笑顔と熱気で大いに盛り上りました。

（大分地区会 岩尾 大輔）

長崎地区会 第35回定期総会・懇親会を開催

すべての議案が可決、そして充実の懇親会

令和5年7月3日（月）長崎市内のサンプリールにおいて、「電子帳簿保存法とインボイス制度へのMJSシステム対応」の研修会が行われ、続いて長崎地区会の第35回定期総会が開催されました。

総会は、草野恒史会長の挨拶に始まり、議長に今村茂雄会員が選出され、令和4年度事業報告及び決算・監査報告、令和5年度事業計画及び収支予算（案）についてそれぞれ説明があり、慎重審議の結果全ての議案が承認可決され無事終了しました。

総会終了後は同会場にて、（株）日本政策金融公庫、大同生命保険（株）、MJSなどご来賓の方々をお招

きし、和やかな雰囲気の中で懇親会が開催されました。

懇親会の中盤にはMJS社員による恒例（？）の自己紹介タイムがあり、新入社員からベテラン社員まで、皆さん個性溢れるクセの強い自己PRで会場は割れんばかりの拍手。

会員の皆さんとMJS社員の皆さんとの距離が更に近まつたのではないでしょうか。

懇親会のラストは、鳥巣会員による三本締めでお開きとなりました。

ご多忙の中、ご出席いただきましたご来賓の皆様をはじめ会員の皆様に心より感謝申し上げます。

（長崎地区会 笠戸 智仁）

佐賀地区会 佐賀地区会定期総会を開催

全会一致で承認可決

令和5年6月30日（金）武雄市の湯元荘東洋館において、令和4年度九州ミロク会計人会佐賀地区会定期総会が開催されました。

山口会長の開会の挨拶に続き、山口会長が議長となり、議案審議に入りました。

【第1号議案】

令和4年度事業活動及び収支報告

【第2号議案】

令和5年度事業計画及び収支予算（案）

第1号議案及び第2号議案ともに山口会長より詳細な説明・報告が行われ、審議の結果、全会一致で承認可決されました。

議案審議の後、ご来賓のMJS福岡支社の高木支社長より祝辞を頂きました。その後MJSの電子帳簿保存法に対応したソフトの研修があり、総



会は無事終了しました。

総会終了後は懇親会が開催され、美味しいお酒と料理に舌鼓を打ちながら、楽しい時間を過ごし、盛会の内に一連の行事を終えることが出来ました。

（佐賀地区会 池田 健一）

鹿児島地区会 定期総会・懇親会を開催

協力し合い効率化を図る



令和5年6月16日（金）に鹿児島市内の「味の八坂」に於いて、鹿児島地区会定期総会が開催されました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してからの初めての総会となり、参加人数も多く盛大に行われました。総会の議案審議については、小川地区会長が議長を務め、予定されていた令和4年度事業報告・決算報告・監事報告、令和5年度事業計画・予算など全ての議案が滞りなく承認・可決されました。

令和5年の事業計画の中に、職員を中心としたインボイス説明会（座談会）、市電（路面電車）貸し切り懇親会と今までにない試みが記載されて

おり、不覚にも面白そうだと感じてしまい、小川会長の策略にまんまとはめられてしまいました。

令和5年度は、鹿児島地区会は、変化の年だなどを感じました。インボイス、電子帳簿保存法等の新しい制度がはじまり、その分税理士事務所の業務が煩雑化します。税理士事務所もいい意味でお互いが協力し合い、業務の効率化を図って、この煩雑化に対応していかないと感じました。

また鹿児島地区会は会員は多少増加してはいますが、会合などへの参加人数に変化があまりありません。小川地区会長が今年度、面白そうな事を計画されているので、会員の交流はもちろん、参加者の増加、入会者の増加を期待できる事業計画ではないかと強く感じる総会になりました。

総会の懇親会は同じ会場で行われました。私はビールを飲みまくり、美味しい食事をいただいた、いつものようにMJSの支社長に大きな声の鹿児島弁で絡んでしまいました。大変失礼いたしました。でも楽しい懇親会でした。来年の総会はおとなしくしようと思います。多分無理ですが。

（鹿児島地区会 桑原 鉄也）

7月10日未明からの大雨は、耳納山観測所で567mm（4日間累積）の史上最大の雨量が観測され、中小河川の氾濫や田主丸町竹野地区では土石流が発生し、人的災害や家屋への浸水、農作物への被害など多くの被害をもたらしました。被災家屋は3,700棟にのぼり近年では最大です。当事務所にも玄関の階段まで水が押し寄せてきました。（4回目）

久留米市では、平成29年朝倉市、宝珠山村に甚大な被害をもたらした「九州北部豪雨」の翌年、「平成30年7月豪雨」から令和3年まで4年連続で豪雨災害に見舞われており、昨年は大雨がなくほっとしていましたが、今年は直前まで予想されていない雨でした。

久留米市の家屋の浸水被害は、平成30年で1,675棟、令和2年で1,955棟、令和3年で2,712棟にも達し、また、農業がさかんな地域ですので、毎回農作物の被害

豪雨災害の準備と対策

◆筑後地区会 長谷広信



も甚大です。

国交省、福岡県、久留米市は浸水対策として、中小河川の護岸工事や排水ポンプの増設、グラウンド等を利用した貯留施設などのハード面の対策を講じていますが、近年の地球温暖化による豪雨災害は防ぎようがないように思われます。毎年水害がおこってもおかしくないので、避難場所及び避難経路、連絡手段などのソフト面での準備・対策で身を守るしかないようです。

おしらせ

「九州の風」VOL.107（2023年6月号7ページ）で、ご案内しました『外園事務所様で作成されました五期比較損益計算書のフォームの無償提供、は、2023年10月末で終了させていただきます。

五期損益・前期比較計算書（趨勢比）

4期前累計実績			前々期累計実績			前期累計実績		
金額	構成比	趨勢比	金額	構成比	趨勢比	金額	構成比	趨勢比
1,922,955	100.0	95.6	118,959,184	100.0	38.3	218,825,905	100.0	100.0
1,922,955	100.0	95.6	118,959,184	100.0	38.3	218,825,905	100.0	100.0

必要な方は、10月中にMJS各支社にお問合せください。

編・集・後・記

九州ミロク会計人会の定期総会に出席してきました。自宅の福岡から長崎までは、初めて西九州新幹線を利用しましたが、乗り換えはあったものの、スムーズであつたという間に到着しました。当日は、総会の出席者が過去最多ということで、懇親会を含め大いに盛り上がった総会だったのではないかと思います。

これからは、各地区会で活発な活動が行われる予定となっていますので、先生方と一緒に盛り上げていきたいと思っております。

また、11月には全国統一研修会大阪大会が開催されますが、多くの方々にお会いできることを楽しみにしています。

（北九州地区会 中山淳）

令和5年度認定研修開催予定のご案内

*ハイブリッド開催は、会場受講とWeb受講の選択ができます。

Web研修会は、MJSのホームページよりお申込みください。

*開催1~2ヶ月前にホームページへ掲載いたします。

- ① MJSホームページ(<http://www.mjs.co.jp/seminar>)の『セミナー一覧』からお申込みください。
ご不明な点はお問い合わせください。(事務局電話番号:092-481-3285)
- ② 申込みページで、氏名、メールアドレス等必要事項を入力します。
- ③ 受付完了のメールが送付されて完了です。

*受付完了メールが届かない場合は、メールアドレスをご確認の上再度お申し込みください。

企画地区会	日時	認定時間	行事内容	講師等	開催形式
1 佐賀	10月4日(水) 13:30~16:30	3	役員と会社との取引とその留意点 ~役員給与、資産の貸借・譲渡、経済的な利益~	税理士 藤井 茂男 氏 藤井茂男税理士事務所 所長	会場
2 福岡	10月12日(木) 13:30~16:30	3	役員退職給与に関する税務上の留意点	税理士 植田 卓氏 植田会計事務所 所長 立命館大学客員教授	ハイブリッド
3 熊本	10月13日(金) 13:30~16:30	3	贈与税の基礎から令和5年度改正までの解説	税理士 中島 孝一 氏 中島税理士事務所 所長	ハイブリッド
4 北九州	10月13日(金) 13:30~16:30	3	事業承継スキームの検討 ~後継者への自社株承継・分散株式集約について~	税理士 谷中 淳氏 税理士法人おおたか	会場
5 大分	10月18日(水) 13:30~16:30	3	生産性アップを目指す! 電子帳簿保存法を理解して業務効率化を図る ~顧問先支援の観点からの電子化対応~	税理士 佐久間 裕幸 氏 佐久間税務会計事務所 所長	ハイブリッド
6 福岡	10月23日(月) 13:00~17:00	4	消費税の基礎講座	税理士 長野 匡司 氏 長野匡司税理士事務所 所長	ハイブリッド
7 鹿児島	11月14日(火) 13:30~16:30	3	株式譲渡・相続・贈与に役立つ 非上場株式の税務上の評価Q&A(上級編)	税理士 公認会計士 成田 一正 氏	ハイブリッド
8 北九州	11月16日(木) 13:30~16:30	3	【9月5日開催予定研修会の日程を変更しました】 新しいデジタルインボイスと 改正電子帳簿保存法のポイント解説	税理士 望月 文夫 氏 青山学院大学大学院特任教授	会場
9 福岡	11月17日(金) 13:30~16:30	3	宗教法人の会計と税務	税理士 公認会計士 中田 ちず子 氏 中田公認会計士事務所 所長	ハイブリッド
10 福岡	11月21日(火) 10:30~16:30	5	【8月9日開催予定研修会の開催日・研修時間を変更しました】 顧問先の財産の承継への対応 -相続税・贈与税の改正を含めて-	税理士 岩下 忠吾 氏 岩下税理士事務所 所長	ハイブリッド
11 福岡	12月5日(火) 13:30~16:30	3	外国人材の登用と税務 ~在留資格の確認、ハローワークへの届出、 そして居住形態の判定~	税理士 望月 文夫 氏 青山学院大学大学院特任教授	ハイブリッド
12 筑後	12月13日(水) 13:30~16:30	3	個人課税の誤りやすい点について(その1)	税理士 植田 卓氏 植田会計事務所 所長 立命館大学客員教授	会場
13 佐賀	12月15日(金) 13:30~16:30	3	譲渡所得調査のポイントはここだ! ~調査する側から、譲渡所得はこう見える~	税理士 武田 秀和 氏 武田秀和税理士事務所 所長	会場
14 福岡	令和6年 1月16日(火) 13:30~16:30	3	令和5年度所得税確定申告のチェックポイント	税理士 竹内 秀男 氏 税理士法人 竹内会計	ハイブリッド
15 熊本	令和6年 1月18日(木) 13:30~16:30	3	インボイス制度開始後の消費税の税額計算と申告書の書き方	税理士 長野 匡司 氏 長野匡司税理士事務所 所長	ハイブリッド
16 大分	令和6年 1月19日(金) 13:30~16:30	3	税法解釈の昏迷とその疑問点を検証する ~税務当局と研究者の60年の経験からの問題提起~	中央大学名誉教授・税理士 大淵 博義 氏 大淵博義税理士事務所 所長	ハイブリッド